

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容

小学校音楽科 分科会 3 【実施日】 令和5年2月16日

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 千住キャンパス			
	(所在地) 東京都足立区千住1-25-1			
講 師 (肩書・氏名)	岩井智宏（桐蔭学園小学校教諭），市川恵（東京藝術大学特任准教授）			
対 象	小学校音楽科担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	音楽科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実			
研修内容の概要	学習指導要領に基づいた児童生徒の資質・能力の育成に向けて、ICTを最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められている。そこで本研修では、講師による具体的な実践提案を体験することを通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を視点とした音楽科授業のあり方を探究するとともに、学習改善、指導改善に結びつく視点や方法を学ぶ。			
	[学習指導要領との関連] 小学校音楽科：「A表現」(1)「歌唱」ア、イ、ウ、(2)「器楽」ア、イ、ウ、〔共通事項〕			
内容と方法	本研修では、音楽科で育成を目指す資質・能力を中核に据えながら「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実をどのように実現するかについて、講師による実践提案の体験やグループワークを通して探究する。その際、ICTを効果に活用した授業づくりについても理解を深めていく。講師の実践提案では、主に歌唱と器楽の指導法を受講生一人一人が経験し、それを各学校の実態に応じてどのように授業に生かしていくかについて考えていく。			
到達目標	1 音楽科におけるICTを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に関する知識を得たり生かしたりしながら、各学校の実態に応じた活動を工夫することができる。 2 授業改善に向けて、歌唱と器楽の指導法や学習内容に生かせる視点と方法を考察することができる。			
スケジュール			実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）		参集
	15:00～15:15	休憩		
	15:15～15:30	リフレクション		個人作業
	15:30～16:10	グループディスカッション		グループワーク
	16:10～16:40	まとめと質疑応答		
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）		
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	筆記用具			
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：学内に学食等はありません。			

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
小学校図画工作科 分科会4 **【実施日】令和6年2月15日**

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	前半(実技):酒匂克之准教授 石賀直之教授 後半(理論):石賀直之教授 酒匂克之准教授			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	28名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「場の発想、場の変容、場の創出」考え方がわかる！場所や空間を生かした高学年の造形遊びの指導とICTの活用 PART2		
研修内容の概要	<p>自分自身を取り囲む環境とは一体どのようなものか、造形的な視点での「場所や空間の意味」とその価値に気づくための考え方、環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて、事例を見ながら理解していきます。その後、小グループを作り場所や空間を生かした造形活動を行います。実際の活動を通して、活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方について、講師と対話をしながらさらに理解を深めていきます。その後、受講者同士のグループディスカッションにおいて高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方について議論していきます。なかなか取り上げられる機会が少ない場所や空間を生かした造形遊びの本質的な考え方についてより深く学んでいきます。また、高学年の造形遊びにおけるICTの効果的な活用の仕方についても具体的事例をもとに体験していきます。</p> <p>[学習指導要領との関連] 第5学年及び第6学年 A表現(1)ア(2)ア B鑑賞(1)ア (共通事項) (1)アイ</p>		
内容と方法	<p>前半 実技講習 酒匂克之准教授 石賀直之教授 1) 場所や空間の概念やその特徴の気付き方、場や空間の変容の意味や価値、環境を生かした造形活動におけるICTの具体的な活用方法について理解する。 2) 大学内の様々な空間を生かして活動を行う。 3) 互いの活動を見ながら振り返りを行う。</p> <p>後半 理論講習 石賀直之教授 酒匂克之准教授 1) 前半の講習と学習指導要領の関連について理解する。 2) 高学年の造形遊びの具体的な題材のあり方についてグループディスカッションを行う</p>		
到達目標	<p>○造形遊びにおける場所や空間の意味とその価値に気づくための考え方を理解する。 ○環境を生かした造形活動を通して学べることやその学習の流れについて理解する。 ○活動の過程で生まれる発想や、考えや思いの方向性の再検討といった高学年の造形遊びに見られる学習のあり方を理解し、その指導法について学ぶ。</p>		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	講義：環境を生かした造形活動の意味	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:10	講義：グループ活動におけるICT機器の活用方法について	参集
	13:10～15:30	実技：環境を生かした造形遊び	グループワーク
	15:40～16:00	講義：学習指導要領から見る実技と造形遊びとの関連	グループワーク
	16:00～16:30	実技 グループワークによる題材作成	グループワーク
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等			
特記事項	<p>○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：無し</p>		

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
小学校図画工作科 分科会 5 【実施日】 令和6年2月13日

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名)	常葉大学 瀬名キャンパス		
	(所在地)	静岡県静岡市葵区瀬名1-22-1		
講 師 (肩書・氏名)	教授 小倉隆			
対 象	小学校図画工作科担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	身近な材料と用具を用いた造形遊び、絵に表す活動を通して、図画工作科の楽しさとよさを味わい確かめる。			
研修内容の概要	午前の部①_1枚のおりがみで形遊び・色遊びを試す。 午後の部②_身近な材料で絵に表すことを試す。 午後の部③_空き箱を材料にした活動（紙モザイク）を試す。			
	[学習指導要領との関連] 午前の部① A表現（1）ア（2）ア、〔共通事項〕（1）ア、イ 午後の部② A表現（1）イ（2）イ、〔共通事項〕（1）ア、イ B鑑賞（1）ア、〔共通事項〕（1）ア、イ 午後の部③ A表現（1）ア（2）ア、〔共通事項〕（1）ア、イ A表現（1）イ（2）イ、〔共通事項〕（1）ア、イ			
内容と方法	①1枚のおりがみを材料に用いると聞けば、折る、つくるなどの活動が予測ができると思われるが、ここでは、形や色に着目することで美しさなどを感じ取ったり、感性を働かせながら表現を多様に試み活動の楽しさを味わう。 ②図画工作科では、絵に表す活動はごく一般的な活動であるが、私達は実際に絵に表す機会がほとんどないと思われる。そこで、身近な用具で絵に表すことを試し紹介し合う。それらの活動を通して絵をかくこと、表現、絵画、鑑賞についての楽しさを味わうとともに、絵に表すことのよさと意義について考える。 ③空き箱は図画工作科の活動において身近な材料である。空き箱を用いた多様な活動をスライドで確かめるとともに、実際に空き箱を材料にした活動（紙モザイク）を試みて、活動の楽しさを味わい、互いの活動を紹介し合う。			
到達目標	・造形遊び、絵に表す活動を行うことで、それぞれの活動の楽しさやよさを味わうことができる。 ・造形遊び、絵に表す活動を行うことで、それぞれの活動で育成される資質・能力について理解することができる。 ・造形遊び、絵に表す活動の過程を実際に経験することにより、指導改善について考えることができる。			
スケジュール			実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）		参集
	11:00～11:15	午前の部① 全体説明		全体説明
	11:15～12:00	1枚のおりがみで形遊び・色遊びを試す		各自活動
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～16:40	テーマ別実践研修（午後の部）		参集
	13:00～13:10	午後の部② 全体説明		全体説明
	13:10～15:00	絵に表す活動を試す		各自活動
	15:00～15:10	休憩		
	15:10～15:20	午後の部③ 全体説明		全体説明
	15:20～16:40	空き箱を材料にした活動（紙モザイク）を試す		各自活動
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）		
17:00	アンケート提出後、研修終了			
教材・持ち物等	教材・用具は全て常葉大学で用意する。 持参するもの：筆記用具、制作物を持ち帰る袋 材料・用具 ①おりがみ、色画用紙（台紙）はさみ、のり ②鉛筆、色鉛筆、練り消しゴム、鉛筆削り（カッターナイフ等）、八つ切画用紙、画板 ③空き箱、はさみ、色画用紙（台紙）、のり			
特記事項	○資料の配布方法：研修当日配布 ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：制作活動が可能な服装			

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） 分科会4 【実施日】令和6年2月16日

担当大学名	東京藝術大学			
会 場	(会場名) 東京藝術大学 千住キャンパス スタジオA			
	(所在地) 東京都足立区千住1-25-1			
講 師 (肩書・氏名)	山本耕平（声楽家、テノール） 高橋 維（声楽家、ソプラノ） 前田拓郎（ピアニスト）			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 ○ オンライン	50名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	各国の歌曲の特徴を捉え、歌唱表現を創意工夫しよう！		
研修内容の概要	本研修では、各国を代表する歌曲を教材とし、それぞれの特徴などを捉えながら、歌唱表現を工夫することを目指す。ソプラノ、テノールの声楽家とピアニストが講師となり、歌唱実践を通して、曲にふさわしい発声や言葉の発音、曲の解釈、自己のイメージの豊かなもち方などについて学び、新しい視点の発見や授業改善につながる具体的な方法を探究する。		
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科：第1学年、第2学年及び第3学年「A表現」(1)歌唱ア、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科音楽：音楽Ⅰ、Ⅱ「A表現」(1)歌唱ア、イ(ア)(イ)(イ)、ウ(ア)(イ)(イ)、〔共通事項〕(1)ア、イ 音楽Ⅲ「A表現」(1)歌唱ア、イ(ア)(イ)、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	本研修で取り扱う教材は、日本語、ドイツ語、イタリア語、英語の歌曲で、教科書に掲載されている曲が中心となる。 内容及び講師の担当は、下記の通りである。 ・日本語とイタリア語の歌の指導：山本耕平 ・ドイツ語と英語の歌の指導：高橋維 ・ピアノ伴奏のポイント、伴奏者（共演者）の視点からの指導：前田拓郎 創意工夫を生かした歌唱表現に必要な技能をはじめ、言葉と音楽との関わり、曲の文化的・歴史的背景などの知識、試行錯誤しながら自己のイメージを深める工夫などを学び、歌唱表現を創意工夫する楽しさや喜びを実感する。		
到達目標	1 歌唱表現に関する様々な知識や技能を習得するとともに、歌唱表現を創意工夫する楽しさを味わうことができる。 2 授業改善に向けて、創意工夫を生かした歌唱表現の指導法や学習内容、教材に関して新たな視点や方法を考察することができる。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）：各国歌曲の特徴	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:45	テーマ別実践研修（午後の部）：イタリア語とドイツ語の歌曲を歌う	参集
	13:45～14:30	英語と日本語の歌曲を歌う	参集
	14:30～14:45	休憩	
	14:45～15:30	グループによる歌唱表現の創意工夫（グループワーク）	参集
	15:30～16:00	成果発表と評価	参集
	16:00～16:30	授業改善に向けての意見交換	参集
	16:30～16:40	休憩	
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	特になし		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無： ○受講する上での環境条件等：		

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽） 分科会 5 【実施日】令和6年2月15日

担当大学名	東邦音楽大学			
会 場	(会場名) 東邦音楽大学			
	(所在地) 埼玉県川越市今泉84			
講 師 (肩書・氏名)	東邦音楽大学大学院特任教授・荻久保 和明 東邦音楽大学講師・難波 研			
対 象	中学校音楽科・高等学校芸術科（音楽）担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 オンライン ○	75名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「生成AIを活用した創作へのアプローチ」～可能性と留意点を探る～		
研修内容の概要	初心者にも分かりやすいように生成AIの基本的な仕組みについて説明するとともに、主にチャットGPTを使用し、様々な条件を入力しながらその活用の可能性を探ります。 AIを活用しながら音楽をつくる資質・能力を生徒が身に付けることができるような指導方法を提案します。		
	[学習指導要領との関連] 中学校音楽科（全学年）「A表現」(3)創作ア、イ(ア)(イ)、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ 高等学校芸術科（音楽Ⅰ・音楽Ⅱ）「A表現」(3)創作ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ)、〔共通事項〕(1)ア、イ、（音楽Ⅲ）「A表現」(3)創作ア、イ、ウ、〔共通事項〕(1)ア、イ		
内容と方法	初心者にも分かりやすい生成AIのシステムと基本的な動作を、実例を交えて解説します。それを踏まえて、「質問の仕方」(条件の入力方法)によってどのようなメロディが引き出せるかを、ライブ感覚で実証していきます。 また、その過程で浮かび上がってくる「教師が注意すべき問題点」について考察・検証します。「ICTの活用によって誰でもできる創作」という陥りやすい落とし穴から先の世界を提示できればと思っています。		
到達目標	この「質問の仕方」の工夫こそが、創作における資質・能力の育成に資するものと考えます。ICTが知識の利用として有用であるのに対し、生成AIは活用の工夫にポイントがあり、そのことを正しく判断することの難しさも含んでいることを理解する機会となればと思います。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／配信
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	配信
		生成AIの基本的システムの概要	
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～17:00	テーマ別実践研修（午後の部）	配信
	13:00～14:00	ベースラインとコードを指定しての実験と検証	
	14:05～15:05	リズムやスタイルを指定しての実験と検証	
	15:15～16:15	現在の生成AIの特に有用なジャンルと未来への展望	
	16:25～16:40	質疑応答	
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等			
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：特になし ○受講する上での環境条件等：オーディオインターフェイスを使用すると、こちらのキーボードの音が聞き取りやすいです。		

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 9 【実施日】 令和6年2月13日

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名) 常葉大学静岡瀬名キャンパス (3号館3106教室)			
	(所在地) 静岡市葵区瀬名1-22-1			
講 師 (肩書・氏名)	長橋秀樹（教育学部教授）、三原信彦（保育学部教授）、合津正之助（造形学部教授）			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	発達特性を考慮し、感受や考察などから発想や構想をし、描画材料からのアプローチにより創造的に表す活動と鑑賞活動への展開（技能の育成、個の多様性に気付く表現と鑑賞活動の実践）
研修内容の 概要	<p>・中学生や高校生の時期の発達特性を踏まえ、言葉の情報（対象）から感じ取ったことや考えたことを学習シートの活用により表現に生かすことで、一人一人の感じ方や捉え方の違いや表現の多様性に気付き、個性を認め合いながら思考力、判断力、表現力等の資質・能力の育成につなげる。</p> <p>・描画材料（アクリル絵具、水彩絵具、墨）の基本的な扱いから展開し、実践を通してその可能性を探究すると共にそれぞれの技能に係わる事柄とその指導方法を身に付ける。</p> <p>・言葉の情報から表現に展開することで、個（それぞれの違い）を知るを学習活動の方法を理解し実践する。一人一人の感じ方や捉え方の違いに気付くことで、個性を認め合いながら豊かな想像力の育成につながる学習活動と造形的な見方考え方について考える。</p>
	<p>[学習指導要領との関連]</p> <p>中学校美術科 A表現(1)ア(ア)(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア) 〔共通事項〕(1)アイ</p> <p>高等学校芸術科（美術） A表現(1)ア(ア)(イ)イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア) 〔共通事項〕(1)アイ</p>
内容と方法	<p>・個性を認め合う授業の考えとその指導方法等について、授業事例と指導案により具体的に解説する。提案する授業は、発達特性や段階に配慮した任意に選んだ絵画作品について、客観的に分析し、視覚情報のみの文章（言葉の情報）を提示する。次にその情報を基に各自が発想や構想をし、想像に基づいた絵を学習シートを活用することにより描き、それぞれの違いを理解し認め合う鑑賞学習を行い、価値観の多様性と個性を尊重する学習活動へと展開する。</p> <p>・実践授業事例から、互いのよさや個性などを認め尊重し合う授業づくりについて考える。例えば、生徒の発達に応じた美術作品を鑑賞し、その作品について言葉で表す。次に、その言葉から想像したことを絵で表現し、その作品を鑑賞し合い、お互いの作品のよさや違い、表現の意図や工夫などについて話し合う。このような授業実践から、互いの作品のよさや特徴などを認め合う授業づくりにはどのような工夫が必要なのかを話し合いを通しながら考えていく。</p> <p>・情報（対象）から感じ取ったことや考えたこと、心の世界などから主を題を生み出す絵画活動を、描画材料（アクリル絵具、水彩絵具、墨）それぞれの教材における言語情報から想像し、自分らしく表現したり追及したりする活動を描画材料毎により実践する。それぞれの描画材料については、専門講師が担当するオムニバス形式であり、他の講師は実技補助により個別指導を行う。</p>
到達目標	<p>・提示された情報を表現と鑑賞の活動に展開することで、造形的な見方や考え方を働かせた美的体験を経験し、実際の授業や学習活動に役立てる資質・能力を培う。</p> <p>・言葉から考えられるものを想像したり、作品について説明し合ったりして、言語活動の充実を図る。</p> <p>・想像し感じ取った形や色彩の特徴や美しさを捉える創造的な演習から、指導方法等の授業づくりについて考える。</p> <p>・多様な表現方法に気付くことで、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す学習活動と指導につなげる。</p> <p>・想像したことを五感等の体全体との係わりを通して、自分の感覚を大切に表現の工夫について考える。</p>

（次ページへ続く）

		実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴 / 参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動（講義室から演習室へ移動）	
	11:00～12:00	・研修プログラム及びタイムテーブルの説明（30分） ・アクリル絵具による描画活動の理論と実践（材料・用具、技法等の説明）	参集／個別作業
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:00	・アクリル絵具による描画活動の理論と実践（学習活動による制作）	参集／個別作業
	14:00～15:30	・水彩絵具による描画活動の理論と実践（材料・用具、技法等の説明と制作）	参集／個別作業
	15:30～17:00	・墨と筆による描画活動の理論と実践（材料・用具、技法等の説明と制作）	参集／個別作業
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	・筆記用具、ウエス（雑巾 等）		
特記事項	○資料の配布方法：研修会当日、会場にて配布 ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：制作が伴うため、作業に適した服装が望ましい。		

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 1 0 【実施日】令和6年2月16日

担当大学名	武蔵野美術大学			
会 場	(会場名) 武蔵野美術大学			
	(所在地) 東京都小平市小川町1-736			
講 師 (肩書・氏名)	尾長良範・武蔵野美術大学日本画研究室教授 三澤一実・武蔵野美術大学教職課程研究室教授			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	日本画で学ぶ 水墨の表現を中心に		
研修内容の概要	今日の日本画は、伝統的な技法や表現形式の研究が進み多様な表現を生み出している。本講座では日本画の可能性について現代の日本画の作品鑑賞や作家の視点から話をするとともに、日本画材を使った日本画の特色を踏まえたワークショップを行い、表現理法の習得や、材料や技法からの発想を体験し、日本画の特色ある表現の可能性を考えていく。本講座では日本画がもつ造形的な視点を重視し、学校の授業で明日から生かせる表現及び鑑賞の講座としていく。また講座のまとめでは、学習指導要領と関連付け、日本画ならではの学びを考察し、具体的な授業に生かせるよう振り返っていく。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科 A表現(1)ア（ア）、（2）ア（ア）（イ）、 B鑑賞(1)ア（ア）、イ（イ）、〔共通事項〕（1）ア、イ 高等学校芸術科美術 A表現(1)ア（ア）（イ）、イ（ア）（イ）、 B鑑賞(1)ア（ア）、イ（イ）、〔共通事項〕（1）ア、イ		
内容と方法	作品鑑賞及び日本画の理解に関しては、スライドレクチャーを通して講師より学んでいく。 材料の特質や表現技法については簡単なワークショップを通して学んでいく。 講座の振り返りでは、体験した内容を学習指導要領の内容と結びつけ、授業実践に生かせるように理解していく。		
到達目標	日本画の表現及び鑑賞を通して、造形的な視点や材料の特質などを理解する。 日本画の特徴を理解するとともに、表現に生かす技能を身につける。 材料の特質を生かした発想や構想の能力を身につける。 日本画の造形的なよさや美しさを感じ取るとともに、日本文化との視点から見方や感じ方を深める。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴 / 参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	参集 / 配信
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:20	スライド講義(尾長)	講義
	14:20～15:10	墨による絵画表現（トイレ休憩は適宜にとる）	各自作業
	15:10～16:10	大判和紙によるグループワーク	グループワーク
	16:10～16:30	学習指導要領上の位置づけとふり返り(三澤)	講義
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）	
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	エプロンなど汚れても構わない衣類を用意すること。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：無し		

令和5年度 芸術系教科担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
中学校美術・高等学校芸術科（美術） 分科会 1 1 【実施日】 令和6年2月16日

担当大学名	武蔵野美術大学			
会 場	(会場名) 武蔵野美術大学			
	(所在地) 東京都小平市小川町1-736			
講 師 (肩書・氏名)	中原俊三郎 (武蔵野美術大学 工芸工業デザインt学科研究室教授) 大坪 圭輔 (武蔵野美術大学 教職課程研究室教授)			
対 象	中学校美術科・高等学芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	○参集 20 オンライン 0	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	問題解決(社会課題)のデザイン/デザイン思考の構築
研修内容の 概要	<p>・テーマA：「子どもの、ベランダから転落を防止するデザイン」スケッチレベルでの提案 集合住宅のベランダから、子どもが転落する事故を予防する方法を提案する。(グループ作業)</p> <p>・評価項目：問題発見力、具体的な解決力、アイディエーション力など</p>
	<p>[学習指導要領との関連]</p> <p>■中学校美術 A表現(1)イ(ア)(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、イ(ア)〔共通事項〕(1)アイ、</p> <p>■高等学校芸術科美術Ⅰ～Ⅲ A表現(2)デザインア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、イ(ア)〔共通事項〕(1)アイ</p> <p>中学校美術における「デザインや工芸などに表現する活動」及び高等学校芸術科美術における「デザイン」における学習の中でも、ここでは特に目的や条件と機能を中心に取り上げる。具体的には、社会的課題を解決するための発想や構想の方法を、社会的要請でもあるデザイン思考によって体験的に学び、これからの学習指導に生かす方法を考える。</p>
内容と方法	<p>デザイン思考は、デザイナーがデザインを行う際に用いるプロセスを体系化したものであり、ユーザーの視点に立ちプロダクトやサービスの本質的な課題やニーズを発見し、問題を解決するための思考法として、現在ではさまざまな分野で活用されている手法である。また、デザイン思考は、イノベーションとの親和性が高く、経済産業省がデザイン思考を推進していることも、一般社会で注目されている背景でもある。今回の研修会を通じて、一つの社会的課題に対してさまざまな解決方法を見出し、その中から適切と思われる解決案を提案できるようにする。</p> <p>本研修では、生活や社会の中にある課題から解決策を考えていく。具体的な課題の一つとして、住宅やマンションのベランダから子供たちが転落する事故がある。これはベランダの大きさや構造、手すりのデザイン等に課題があったとされているが、このベランダの構造にフォーカスし「環境やモノのデザインを変える」ことを視野に入れた解決策を考える。</p>
到達目標	<p>①デザイン思考について理解する。</p> <p>②あらゆる方面とのコミュニケーション方法を学び、スキルアップする。</p> <p>③プレゼンテーション力を身につける。</p>

(次ページへ続く)

		実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／参集 聴講
	10:45～11:00	諸連絡・休憩	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部） ①前提講義 ②グループディスカッション（4人x 5グループ） ・全体計画の検討、リサーチ	聴講 グループワーク
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～15:10	テーマ別実践研修（午後の部） ③グループディスカッション ・コンセプトメイキング ・アイディエーション ・まとめ	グループワーク
	15:20～16:10	④発表 ・各グループ10分（発表5分＋質疑5分） ・全体講評	発表 聴講
	16:15～16:30	⑤中高美術における題材としての展開の可能性について	聴講
	16:35～16:55	⑥まとめ(調査官)	聴講
	16:55～17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・ 持ち物等	【大学 準備】 ・ポストイット（各種）、マーカー（太、中、細） ・ホワイトマーカー（太、中／黒、赤、青、緑）、消し具 ・Wi-Fi環境、電源延長コード 【受講生準備】 ・ノートパソコンもしくは、タブレット端末、 ・使用ソフトMicrosoft Office PowerPoint（プレゼン用）		
特記事項	受講する上での環境条件等：大学アクセスは武蔵野美術大学ホームページ参照 https://www.musabi.ac.jp/ 詳細は後日連絡		

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 1 2 【実施日】令和6年2月15日

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 〒192-0992 東京都八王子市宇津貫町1556			
講 師 (肩書・氏名)	助教 常田泰由（絵画専攻領域） 教授 山田猛 （教職課程）			
対 象	中学校美術科、高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	20名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	ミニアートブック制作から題材開発へ ー表現と鑑賞及び言語活動、右脳と左脳との往還からー			
研修内容の概要	・ 絵画専攻領域教員によるミニアートブック制作を通して、個及び他者との関わりをもった表現活動を行う。 ・ 教職課程教員及び絵画専攻とのTTにより、表現と鑑賞、右脳と左脳、描画と言語活動、生徒と指導者の視点等、それぞれの往還によるスパイラル的なイメージ生成を目指し、新たな視点や気づきを生み出すための授業デザインや題材開発を目指す。			
	[学習指導要領との関連]中学校美術科：A表現(1)ア(ア)(2)ア(ア)(イ)B鑑賞 (1)ア(ア)共通事項(1)アイ 高等学校芸術科（美術Ⅰ）：A表現(1)ア(ア)(イ) イ(ア)(イ) B鑑賞 (1)ア(ア)共通事項(1)アイ			
内容と方法	・ 前半：形や色彩による表現活動 描く、切る、並べる、選ぶ、交換する、綴じる等の表現活動を、個人制作及び他者との関わりの往還を通してミニアートブック制作を行う。 ・ 後半：鑑賞活動 個と他者、描画と言語活動、生徒と指導者それぞれの視点、右脳と左脳、等々の往還をしつつ、言語活動を通してイメージ生成のスパイラル的な発展を目指しつつ、新たな視点や気づきを生み出すための授業デザインや題材開発について探る。			
到達目標	ミニアートブック制作と鑑賞を通して、形や色彩による表現活動と言語活動、個と他者との関わり、右脳と左脳、生徒と指導者の視点等々のシームレスな往還により見えてくる、題材開発や授業デザインに繋がる新たな気づきや視点を生み出す。			
		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	オリエンテーション、レクチャー①、制作活動導入		参集／受講
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～14:45	演習①ミニアートブック制作		参集／制作
	14:45～15:00	レクチャー②		参集／受講
	15:00～16:40	演習②鑑賞及び討議		参集／グループワーク
	16:40～17:00	全体講評（文化庁教科調査官）		参集／全体
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	筆記用具			
特記事項	○事前・事後課題の有無：無し ○資料の配布方法： 研修会当日配布 ○受講する上での環境条件等：学食、学内コンビニエンスストア、学食スペース及び学内カフェテリア飲食スペース利用可。学外近隣には飲食店がありませんのでご注意ください。			

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 1 3 【実施日】令和6年2月15日

担当大学名	東京造形大学			
会 場	(会場名) 東京造形大学			
	(所在地) 東京都八王子市宇津貫町1 5 5 6			
講 師 (肩書・氏名)	鷹野隆大 教授 小林貴史 教授			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容				
テーマ	見ることと見られること ―自己と他者、表現と鑑賞の往還からなる自己生成―			
研修内容の概要	「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、学習者自身が自らの学びや変容を自覚し、対話によって考えなどを広げたり深めたりする場面を設定することが求められている。 本研修では、写真表現をもとに互いにポートレイトを撮影し、それらをセレクトすることを通して、そこに表現された自己のイメージ、他者のイメージから私自身をあらためて見つめ直していく。 ここでは、対象を客体化し主体から切り離されたものとして表現へとつなげていくのではなく、対話を通して表現することと鑑賞することの往還を可能とし、自他への理解、そして自らの成長を実感できる機会としたい。 そして、このことが美術科において求められる資質・能力の育成を支える学びの姿として、さまざまな造形活動に共有されることを学校教育の実践の場に重ねていく。			
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現（１）イ(イ)（２）ア(ア)(イ)、B鑑賞（１）ア(イ)、〔共通事項〕（１）アイ 高等学校芸術科美術：A表現（３）ア、イ B鑑賞（１）ア 〔共通事項〕（１）アイ			
内容と方法	研修① ・互いのポートレイトを写真で複数枚撮影する。 ・撮影者と非撮影者がそれぞれ3～4枚の写真を選ぶ。 ・互いが選んだ写真をもとに自他がもつイメージの特徴や違いから私自身を見つめていく。 研修② ・研修①での体験をもとに中学校美術科、高等学校芸術科美術における主体的・対話的で深い学びを実現するための表現と鑑賞の指導の関連を踏まえた授業をグループごとに構想する。 ・授業構想を発表し、全体で指導のポイントを共有する。			
到達目標	表現と鑑賞の往還を可能とする研修体験をもとに、中学校美術科ならびに高等学校芸術科美術における授業改善へ向けての議論や発表を通して、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりへの理解と実践へとつなげる。			
スケジュール		実施内容		実施方法
	9:00～9:30	受付		
	9:30～10:45	開講式・理論研修		動画視聴／参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動		
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）写真表現とポートレイト		参集
	12:00～13:00	昼食		
	13:00～15:00	テーマ別実践研修（午後の部）ポートレイトの撮影と鑑賞		参集
	15:00～15:10	休憩		参集
	15:10～16:40	表現と鑑賞の往還をもとにした授業づくりの検討・発表 振り返り		参集
	16:40～17:00	全体講評 アンケート記入		参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了		
教材・持ち物等	・筆記用具			
特記事項	○資料の配布方法：当日配布 ○事前・事後課題の有無：なし ○受講する上での環境条件等：昼食には学食も利用できます。（学外近隣には飲食店がありませんので、ご注意ください。）			

令和5年度 芸術系教科担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
中学校美術科・高等学校芸術科（美術） 分科会 1 4 【実施日】 令和6年2月14日

担当大学名	女子美術大学			
会 場	(会場名) 女子美術大学 相模原キャンパス			
	(所在地) 神奈川県相模原市南区麻溝台1900			
講 師 (肩書・氏名)	福田笑子（女子美術大学非常勤講師）、鈴木淳子（女子美術大学教授）			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（美術）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	「線の構成による立体表現－編組法を用いて－」		
研修内容の概要	材料の特性と繊維構造の相関関係から多様な形態が生まれる。本講座は、立体を編む「かごづくり」の編組法を用いて立体を構成し、線状の材料を様々に組み合わせることで、創造的な立体表現へとつなげる実技研修である。線状の材料には、棒状の小枝、ラフィア、紙バンド、針金などを用い、「結ぶ」「巻く」「組む」「編む」の手法により多様な形態を造形し、立体構造・空間の概念を拡大する。独自の視点、自らのイメージを形に反映させる立体表現の楽しさを味わうとともに、編組法を用いた立体構成の美術題材への応用、授業展開の可能性を探る。		
	[学習指導要領との関連]【中学校学習指導要領】〔第1～第3学年〕 2 内容A 表現 (1) ア (ア)、 (2) ア (ア) (イ)、〔共通事項〕 (1)ア、イ【高等学校学習指導要領】芸術 美術Ⅰ 2 内容A表現 (1) ア (ア) (イ)、イ (ア) (イ)、〔共通事項〕 (1)ア、イ、美術Ⅱ 2 内容A表現 (1) ア (ア) (イ)、イ (ア)、〔共通事項〕、美術Ⅲ 2 内容A表現 (1) ア (ア)、イ (ア)、〔共通事項〕 (1)ア、イ		
内容と方法	講義では、バスケットリーの定義、歴史を解説し、現代作家の編組法を用いた立体アート作品や大学の実技授業、大学生の作品例を紹介する。実技研修では、基本となる編組法を学んで参加者各自が作品を制作した後、全体で鑑賞を行う。また、制作物を基に中学校・高等学校の美術の授業への活用アイデアをディスカッションし、題材開発や今後の授業改善に生かす。		
到達目標	・バスケットリーの基礎的な編組法を習得し、線状の材料を構成、変化・加工して立体作品を造形する。 ・立体を構成する線状の材料や構造・空間の概念を拡げ、新たな美術の題材、授業展開を構想する。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	09：20～09：30	受付	
	09：30～10：45	開講式、全体研修、理論研修（教科別：文化庁による進行）	動画視聴／参集
	11：00～12：00	「研修テーマと趣旨、学習指導要領との関連」 鈴木	参集
		講義「バスケットリー 編組法を用いた立体アート」 福田	参集
	12：00～13：00	昼食	
	13：00～14：00	実技「小枝プロジェクト」 福田	各自作業
	14：00～14：20	鑑賞 福田・鈴木	参集
	14：20～14：30	休憩	
	14：30～15：00	講義「線の構成による立体表現」 福田	参集
	15：00～16：00	実技「結びー紙バンドを結んで立体にする」 福田	各自作業
	16：00～16：30	グループディスカッション、発表、まとめ 福田・鈴木	グループワーク
	16：30～17：00	講義「『結び』を用いた多様な作品例」 福田	参集
教材・持ち物等	筆記用具、汚れてもよい服装（エプロン、作業着）		
特記事項	○事前課題なし ○資料の配布方法：研修会場で配布する。 ○受講する上での環境条件等：無		

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） 分科会 4 【実施日】 令和6年2月13日

担当大学名	常葉大学			
会 場	(会場名) 常葉大学瀬名キャンパス 3号館 3110教室			
	(所在地) 静岡県静岡市葵区瀬名1-22-1			
講 師 (肩書・氏名)	教授 山本浩二 准教授 磯崎えり奈			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 ○ オンライン	15名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容	
テーマ	身の回りの形から発想するデザイン（オリジナルスプーンをつくる） －○○がスプーンになったら－
研修内容の 概要	<p>真鍮でスプーンを制作する。スプーンという、口をつける部分は丸みを帯び、手で持ちやすいように柄が付いているという形を思い浮かべる。何かものをつくり出す時、どのようなプロセスを経てアイデアを出していくのかという発想の転換を重要視し、また生徒の多様な個性やよさが伸ばせるように工夫し制作を行う。</p> <p>スプーンをインターネットで検索しても、従来のスプーンの形状から離れたものが出てくることはあまりない。少し変わったものでも、スプーンの柄に何かが付いたものや、もともとスプーンの形状に近いものをモチーフにしたものが多いだろう。</p> <p>今回のテーマは「○○がスプーンになったら」である。例えば「ズボンがスプーンになったら」とか、「レモンがスプーンになったら」「ピーマンがスプーンになったら」など、身近なものや興味のあるものから発想し、形をつくり出したい。スプーンの形に寄せるのではなく、想定したモチーフがズボンであれば、ズボンがスプーンに擬態しているようなイメージで発想したい。「スプーンが○○になった」のではなく「○○がスプーンになった」という遊び心のある題材である。</p> <p>使い勝手が良いという観点だけではなく、使い方は限定されるかもしれないが日常に楽しさが生まれ、作品に対する愛着が生まれるようなものづくりについて考える。</p> <p>[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)イ(ウ)、(2)ア(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(イ)、イ(ア)、〔共通事項〕(1)アイ 高等学校芸術科（工芸Ⅰ）：A表現(1)ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、B鑑賞(1)ア(ア)、イ(ア)、〔共通事項〕(1)アイ</p>
内容と方法	<p>①説明。アイデア出し。身近なものや好きなものを書き出す。スプーンはどのような時に使うのかリサーチする。（30分） 磯崎</p> <p>②モチーフが決まったら、どのような形にするか、スプーンとしての機能をどこにもたせるか。おもしろいかたちを考える。（30分） 山本</p> <p>③糸鋸の使い方説明、練習。道具の使い方と加工技術を学ぶ。（20分） 磯崎</p> <p>④真鍮板に下描き。切り出し。切り口を金やすりで研磨。必要なら銅板を切り出し部分的にロウ付け。必要であれば穴あけ。時間節約のため電動糸鋸、バンドソー、ベルトサンダーなど機械を使用（100分） 磯崎・山本</p> <p>⑤スプーンの形状に変形。金鋸、木槌、臼、鉛、矢坊主、ヤニを使い変形させる。（30分） 磯崎</p> <p>⑥仕上げ。金やすり、紙やすり、重曹、研磨剤など。（30分） 山本</p> <p>⑦鑑賞 できたスプーンはどういった場面で使われると良いか。（20分） 磯崎・山本</p> <p>⑧振り返り(20分)</p>
到達目標	<p>金属板（真鍮）の基本的な加工技術を習得することができる。</p> <p>意外性のある発想で用途を持つ道具としてのスプーンの形を導き出すことができる。</p> <p>ユニークな造形でありながらも使い勝手の良い形へとデザインの質を高めていくことができる。</p>

（次ページへ続く）

	実施内容	実施方法
スケジュール	9:00～9:30	受付
	9:30～10:45	開講式・理論研修
	10:45～11:00	休憩・会場移動
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）
	11:00～11:30	全体説明 リサーチ
	11:30～12:00	エスキース
	12:00～13:00	昼食
	13:00～16:40	テーマ別実践研修（午後の部）
	13:00～13:20	道具の説明
	13:20～16:20	制作
	16:20～16:40	鑑賞
	16:40～17:00	振り返り
	17:00	アンケート提出後、研修終了
教材・ 持ち物等	<p>材料・道具は全て常葉大学で準備する。</p> <p>材料：真鍮板（厚1.5mm、1.2mm）、銀ロウ（早ロウ）、銅板（1.2mm） 真鍮板の大きさは一人150mm×200mm程度、銅板は部分的に使用</p> <p>道具：金属用糸鋸弦、糸鋸刃（1/0、2/0、0/1、0/2）、金鋸、木槌、木臼（小さいもの）、矢坊主、鉛、ハンドガスポンペ、フラックス、耐火煉瓦、ヤットコ、ピンセット、ペンチ、ラジオペンチ、ヤニ、タガネ、ラッカーシンナー、ウエス、金ヤスリ、紙やすり、重曹、磨き粉、ハンドドリル、ドリル刃、電動糸鋸、バンドソー、ベルトサンダー</p> <p>持ち物：筆記用具、作業着（汚れてもよい服装、スニーカー、※ズボンは足首の隠れる長さが望ましい）</p>	
特記事項	<p>○資料の配布方法：当日会場にて配布</p> <p>○事前・事後課題の有無：無</p> <p>○受講する上での環境条件等：道具、機械加工による大きな音</p>	

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
中学校美術科・高等学校芸術科（工芸） 分科会 5 【実施日】 令和6年2月13日

担当大学名	金沢美術工芸大学			
会 場	(会場名) 金沢美術工芸大学			
	(所在地) 石川県金沢市小立野2丁目40番1号			
講 師 (肩書・氏名)	原 智（金沢美術工芸大学・教授）（進行：桑村佐和子（金沢美術工芸大学・教授））			
対 象	中学校美術科・高等学校芸術科（工芸）担当教員等	定員 (いずれか該当する欄に○)	参集 ○ オンライン	10名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	象嵌技法をもとに考える、伝統工芸への理解を深める授業の展開		
研修内容の概要	本研修では中学校における「美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う」また、高等学校芸術科工芸の「主体的に工芸の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり工芸を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、工芸の伝統と文化に親しみ、生活や社会を心豊かにするために工夫する態度を養う」ことに重点を置いた授業展開について考える。先人たちが育み、現在も新たな展開をし続ける工芸の一端をいかに実感を持って受け止めさせ、主体的に関わる態度を養う授業を検討する。		
	[学習指導要領との関連] 中学校美術科：A表現(1)イ(2)ア(ウ) B鑑賞 (1) イ(ア)(イ) 【共通事項】 (1) アイ 高等学校芸術科（工芸）：A表現(1)ア(ア)(イ)イ(ア)(イ)(2)ア(ア)(イ)B鑑賞 (1)ア(ア)(イ)イ(ア)(イ)【共通事項】(1)アイ		
内容と方法	石川の伝統工芸である加賀象嵌について大学資料等も用いつつ特徴と歴史を学び、さらに実際に基本的技法を体験することに理解を深め、中・高の授業にどのように活かすかを考える。 ①レクチャーと現物に触れることにより加賀象嵌技法の歴史的背景、技法的特点を学ぶ。 ②加賀象嵌技法の基本的技法を体験する。 ③中学美術、高校工芸での授業展開についてアイデアを出し合い、今回の体験の振り返りを行う。		
到達目標	加賀象嵌について参加者（教員）自身が基本的技法を体験することにより、伝統工芸への理解を深める。 具体的な生徒像を想定して、それぞれの学校の実態に合わせ得た題材設定を考える。 中高の美術科・工芸科教育は、伝統工芸に対して生徒に造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ねさせることにより、生徒が伝統文化に幅広く関わることに資することを再認識する。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴 / 参集
	10:45～11:00	休憩・会場移動	
	11:00～12:00	講義：加賀象嵌 -技法とその歴史-	参集
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～13:20	演習：加賀象嵌技法の解説（実技）	参集
	13:20～15:50	演習：加賀象嵌技法の体験（各自のタイミングで休憩）	各自作業
	15:50～16:40	演習：授業への応用の可能性	グループワーク
	16:40～17:00	全体の振り返り、アンケートの記入	参集
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	事前に、服装・持ち物などについては参加者にお知らせします。特別な道具等は必要ありません。		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無：無し ○受講する上での環境条件等：無し		

令和5年度 芸術系教科等担当教員等全国研修会 テーマ別研修内容
高等学校芸術科（書道） 分科会 2 【実施日】 令和6年2月15日

担当大学名	福岡教育大学			
会 場	(会場名) 福岡教育大学			
	(所在地) 福岡県宗像市赤間文教町 1 - 1			
講 師 (肩書・氏名)	和田圭壮先生（福岡教育大学）、福元隆寛先生（福岡県立苅田工業高等学校）			
対 象	高等学校芸術科（書道）担当教員等	定員 (いずれか該当 する欄に○)	参集 オンライン ○	40名

＜テーマ別実践研修＞プログラムの内容			
テーマ	学習評価につながる指導及びワークシートの工夫と、主体的に学習に取り組む態度の評価		
研修内容の概要	現職教員による、学習評価につながる指導及びワークシートの工夫、主体的に学習に取り組む態度の評価に係る授業提案、研修会参加者による協議、教科調査官による指導・講評を通して、新学習指導要領の趣旨と「指導と評価の一体化」のための学習評価への理解を深める。		
	[学習指導要領との関連] A表現・・・（２）漢字の書 ア（ア）（イ）、イ（ア）（イ）、ウ（ア）（イ） B鑑賞・・・（１） ア（ア）（イ）、イ（ア） 〔共通事項〕・・・（１） ア、イ		
内容と方法	・教科調査官による理論研修（高等学校芸術科書道に係る行政面からの解説） ・現職教員による授業研究発表（「書道Ⅰ」「漢字の書」「行書の創作」） ・研修会参加者による研究協議 ・教科調査官による指導・助言		
到達目標	・学習指導要領の趣旨と高等学校芸術科書道の指導内容、「指導と評価の一体化」のための学習評価について理解を深める。 ・学習指導要領で求められている、指導方法等の工夫・改善について、特に学習評価につながる指導及びワークシートの工夫と、主体的に学習に取り組む態度の評価について理解を深める。		
スケジュール		実施内容	実施方法
	9:00～9:30	受付	
	9:30～10:45	開講式・理論研修	動画視聴／配信
	10:45～11:00	休憩	
	11:00～12:00	テーマ別実践研修（午前の部）	配信
	12:00～13:00	昼食	
	13:00～14:30	テーマ別実践研修（午後の部①）	配信
	14:30～14:45	休憩	
	14:45～16:15	テーマ別実践研修（午後の部②）	配信
	16:15～16:30	休憩	
	16:30～16:50	全体講評（文化庁教科調査官）	配信
	17:00	アンケート提出後、研修終了	
教材・持ち物等	『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）解説 芸術編』（書道記載部分） 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 芸術（書道）』		
特記事項	○資料の配布方法：研修会専用ホームページよりダウンロード ○事前・事後課題の有無： 無し ○受講する上での環境条件等：ZOOMの視聴が可能なネットワーク環境		